

経営比較分析表（令和4年度決算）

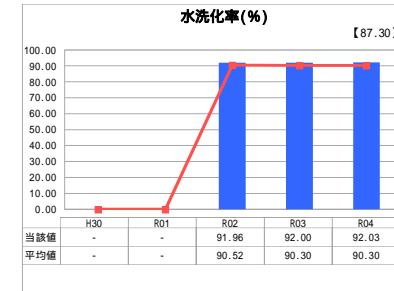
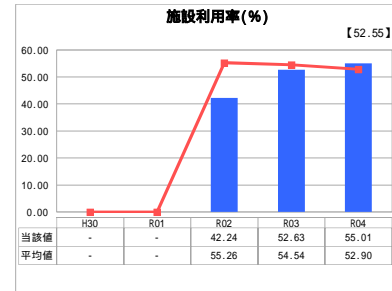
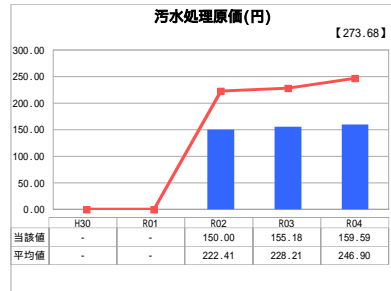
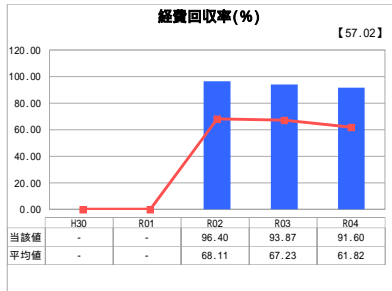
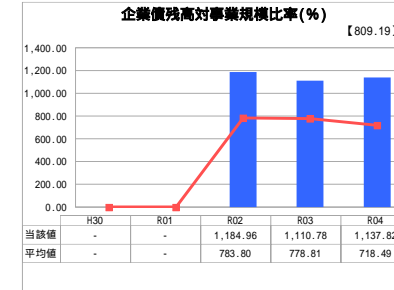
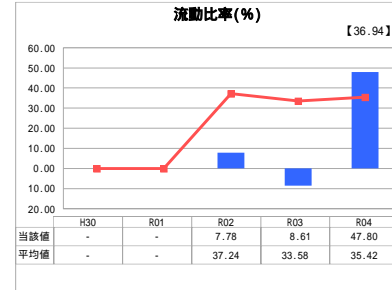
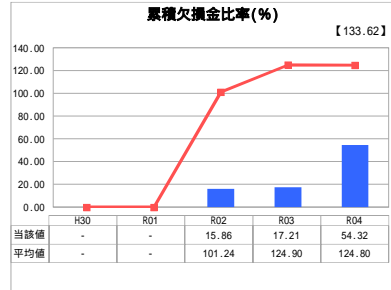
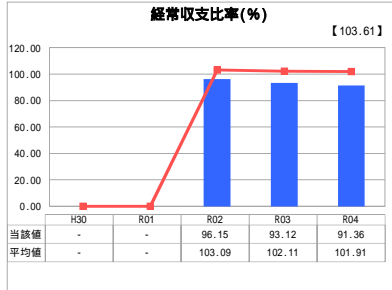
福島県 南相馬市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	農業集落排水	F1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	77.52	5.67	86.65	3,107

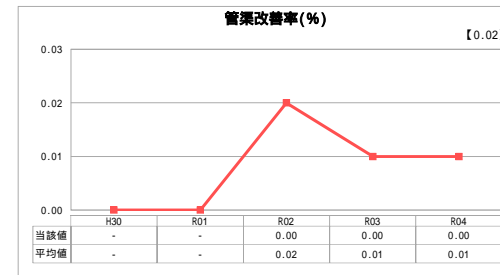
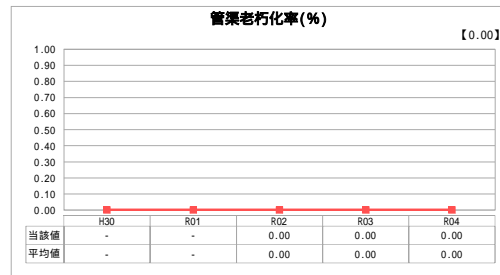
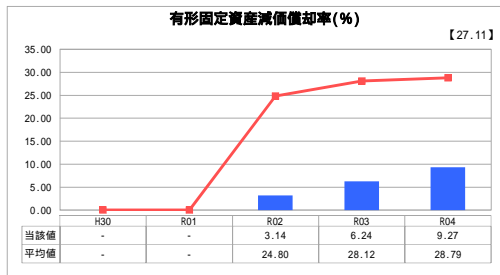
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
57,527	398.58	144.33
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
3,238	5.89	549.75

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
【】 令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率
類似団体平均を下回っており、公営企業会計を適用した令和2年度から年々減少している。主な要因は、使用料収入や一般会計負担金に対して維持管理費や企業債の利子償還金が過大となっていることによるものである。

累積欠損金比率
公営企業会計を適用してから間もないことから、類似団体平均よりも低い水準となっているが、令和3年度に比べて大幅に増加している。これは、使用料収入が横ばいである一方、物価高騰・エネルギー価格高騰の影響により維持管理費が増加したことによるものである。

流動比率
令和4年度は前年度に比べて大きく上昇し、類似団体平均を上回る結果となった。主な要因は、繰越事業の財源として借入を行った企業債前借金の影響によるものであり、一時的なものとして捉えている。

経費回収率、汚水処理原価
経費回収率は90%台を維持しているものの、年々減少している状況である。これは、使用料単価が低い水準であるにも関わらず、汚水処理原価が前年度よりも増加していることに起因している。

維持管理費の増加傾向に伴い汚水処理原価の上昇傾向も続く予想されることから、適正な使用料水準を検証していく必要がある。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率
本市の農業集落排水事業全体としてみると、供用開始から比較的年数が経過していないことから、類似団体平均よりも大幅に低い水準となっている。

しかし、公営企業会計を適用した令和2年度から毎年約3%ずつ上昇しており、今後計画的な施設更新等を行っていく必要がある。

管渠老朽化率、管渠改善率
管渠については法定耐用年数を超えるものがないため0%となっているが、今後、施設同様に老朽化が進んでいくことから、当該指標を注視していく必要がある。

全体総括

本市の農業集落排水事業については、処理区域内の人口減少に伴い、将来的な水洗化人口の増加が期待できないことから、使用料収入は横ばい又は減少に転じていくと見込んでいる。

また、近年施設の老朽化に伴う修繕費が増加していることに加え、今般の物価高騰・エネルギー価格高騰の影響により維持管理費が増加している状況である。

以上から、今後処理施設の統合や公共下水道への接続など、維持管理費削減に有効な対策を検討し、効率的な事業運営を行っていく必要がある。

併せて、平成28年度に策定した経営戦略は公営企業会計適用前のものであることから、中長期的な収支計画を見直した上で、健全経営を行っていくことができる使用料水準の検証を行い、令和6年度に改定することとしている。

「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみ類似団体平均値及び全国平均を算出しています。